

令和6年度伊平屋村予算要求総表

資料 4

(単位：千円)

費目	R6要求額	R5予算現額	増△減	備考
総計	3,998,006	5,083,792	△ 1,085,786	
① 島の未来は教育がつくる	402,131	361,455	40,676	
② 女性と子どもが大切にされ、すべての住民が安心して暮らす島	431,350	426,133	5,217	国保 202,583 後期高齢 13,678 歯科 15,980
③ 里山・里海を活用した産業が息づく島	415,333	1,531,477	△ 1,116,144	
企画財政課	889	77,948	△ 77,059	商福連携推進事業 △ 58,000千円
観光交通課	130,059	154,980	△ 24,921	観光プロモーション △ 6,500千円 観光DX推進計画 △ 7,000千円
農林水産課	284,385	1,298,549	△ 1,014,164	ライスセンター整備 △ 10億円
④ 安全・安心、快適な暮らしを支えるしまづくり	1,504,654	1,237,168	267,486	水道 245,301 農排 53,426 港湾 5,606 船舶 641,192 (R5決算)
⑤ 豊かな自然と歩み続けるしま	227,405	279,825	△ 52,420	
⑥ 共創・協働のむらづくり	65,229	71,653	△ 6,424	
⑦ その他 うち 人件費 (再掲含む)	951,904 (1,423,028)	1,176,081 (1,236,550)	△ 224,177 (186,478)	特別会計繰出金総計 152,959

5次総計の該当箇所

○第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策4：環境共生型農林水産業の推進（持続可能な農林水産業の推進）

事業概要・目的

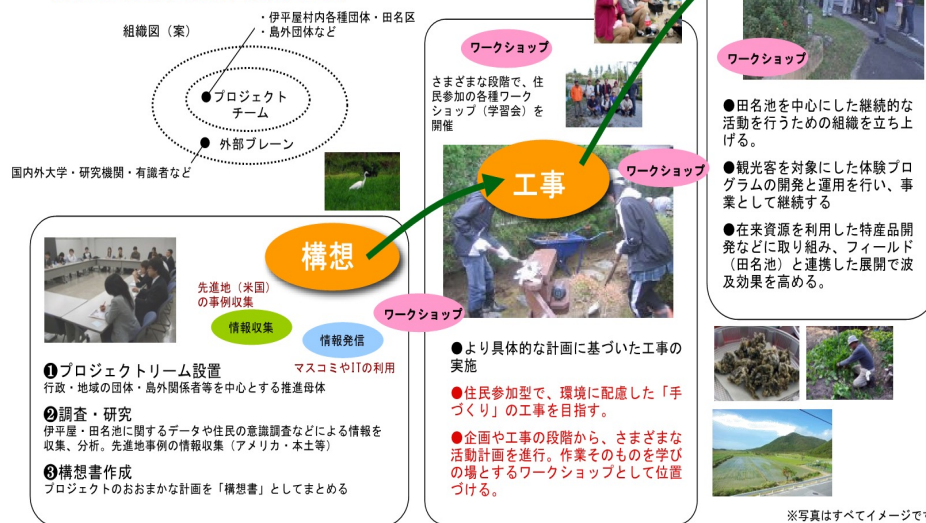
○本事業は、本村北側に位置する田名池（26h）を地域資源として位置づけ、環境保全と親水性を高めるための島内外ボランティア活動拠点や仕組みづくりを構築し、環境教育活動による交流・関係人口の創出と持続可能なエコアイランドの実現を目指すものである。



事業イメージ・具体例

これからの行程

住民参加型の工事を実施し、地域自らが継続的な運営に関わる地域事業を目指します。



資金の流れ

ソフト事業

一般財源（企業版ふるさと納税 100%）

国（離島活性化事業） 8割

ハード事業

起債 2割



期待される効果

- 田名池の機能性・景観性の復元
- 活動をとおした交流・関係人口の創出
- 新たな観光メニュー・アクティビティの開発による雇用創出

前年度までの成果

- 検討委員会の設置
- 環境調査の実施
- 海外（米国）大学生ボランティア活動の受入実施

5次総計の該当箇所

第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策1 村内産業の活性化に向けた仕組みづくり

事業概要・目的

○本村産業の構造改善の円滑な促進を図り、産業の生産性の向上及び経営の安定を促進するために必要な助成対策資金を造成し、その資金の円滑かつ有効的な運用によって、産業の総合的な振興発展を図る。

事業イメージ・具体例

- 名称：伊平屋村産業振興総合推進資金貸付基金
- 貸付対象：各種補助事業に係る受益者負担の支払に要する資金
補助事業以外の事業で、村長が認める事業に要する資金
- 貸付金額：資金の貸付限度額は上限100万円以内
- 貸付条件：貸付利率は無利息
貸付期間は6年以内（措置期間含む）
償還方法は年賦払い
貸付金の指定償還日までに支払がない場合は年率5%を課す。
- 貸付期間：年2回9月と3月に貸付募集及び審査決定

資金の流れ



期待される効果

- 村内事業社及び農林水産業従事者に対し貸付することで、各種事業の活性化や、農林水産業従事者の作業効率等の向上が図られ所得向上につながる。

前年度までの成果

- 令和5年度貸し付け状況：5名（500万円）

5次総計の該当箇所

○第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策3 農林水産業の新たな担い手の確保と先進化

事業概要・目的

- 本村における農業を取り巻く情勢は、農業従事者の高齢化や担い手不足等、深刻な問題を抱えており、地域農業の担い手の育成・確保は喫緊の課題であり、就農促進対策を積極的に推進するとともに、青年の新規就農者及び経営継承者を増加させる必要がある。
- 新規就農や経営継承をするに当たっては、技術の習得や所得の確保等が課題となっていることから、次世代を担う農業者になることを志向する者に対し、資金の交付を行うことにより青年の就農意欲の喚起と就農後の定着を図り青年就農者の大幅な増大を図る。

事業イメージ・具体例

- 伊平屋村の就農初期の青年就農者に対して経営開始型の交付金を交付することにより就農意欲の喚起及び就農後の定着を図る。
- 資金の額は、経営開始1年目から経営開始3年目までは交付期間1年につき1人あたり最大150万円。経営開始4年目以降は交付期間1年につき1人あたり120万円を交付する。交付期間は最長5年間。
- 交付を受けようとする者は、青年等就農計画等を作成し、交付主体に承認申請する。承認を受けた者は、交付申請を提出し交付主体から承認を受けた後 資金が交付される。

資金の流れ



期待される効果

- 就農初期の段階は、資材の調達等経費が重なることで経済的な負担が大きい。資金を交付することで、金銭面でのカバーを行いつつ就農意欲の喚起と就農後の定着を図ることで青年就農者の増大が見込まれる。

前年度までの成果

- 農業次世代人材投資事業：交付者3名
- 新規畑人資金支援事業：交付者1名

5次総計の該当箇所

○第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策3 農林水産業の新たな担い手の確保と先進化

事業概要・目的

○本事業は、村内の水稲農家が行うジャンボタニシ駆除に要する費用の一部を村が補助することによって、本村水稲農家の生産性向上及び所得増大並びにジャンボタニシによる水稲食害の縮小に資することを目的とする。

事業イメージ・具体例

- 村内農地で水稲生産を行う者が、JAおきなわ伊平屋支店より購入した対象駆除剤により、ジャンボタニシの駆除を行う農家に対して、その費用の一部を補助する。
- 補助対象期間は、4月1日から翌年3月31日までとし、駆除剤購入に係る未収金請求書・供給明細書の何れかを提出する。
- 補助金の額は、予算の範囲内において、駆除に要する駆除剤購入費用の2分の1を限度として交付する。算定した額に100円未満の端数がある場合は切り捨てる。

資金の流れ



期待される効果

- 田植え直後の柔らかい水稲苗の食害を受けやすいため、地域で一体となり適期防除することで収穫期までの食害を最小限に抑えることが見込まれる。

前年度までの成果

- R4年度1期作：791,000円（交付農家数：15戸）
R4年度2期作：321,000円（交付農家数：9戸）
R5年度2期作：172,082円（交付農家数：4戸）

5次総計の該当箇所

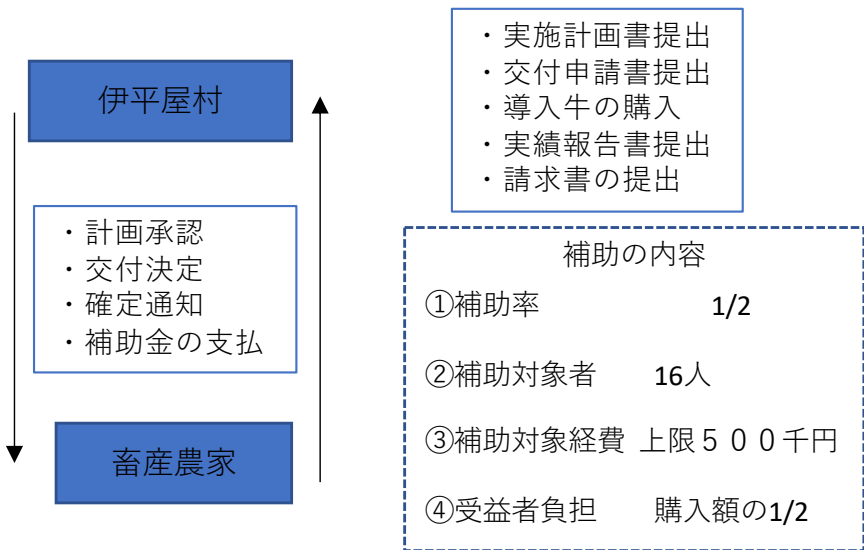
○第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策3 農林水産業の新たな担い手の確保と先進化

事業概要・目的

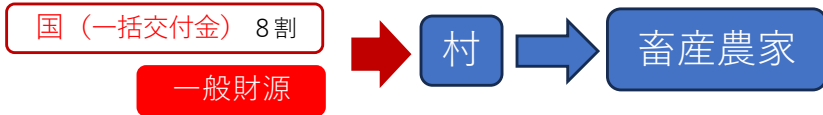
- 本事業は、黒毛和牛（母牛）のセリ購入費用について、1頭当たり500千円を上限として購入額の1/2を助成するもの
- 本村の肉用牛生産組合は16戸の生産農家で構成され、母牛飼育頭数は200頭程度である。生産者努力で購入または自家保留等により、増頭傾向にはあるが、母牛の高齢化等により、母牛の更新を農家努力で行うには困難な状況にある。そこで、優良雌牛導入を支援し、生産農家の経営の安定化を目指していく。

事業イメージ・具体例

○黒毛和牛（母牛）のセリ購入費用について、1頭当たり500千円を上限として購入額の1/2を助成する。



資金の流れ



期待される効果

○本事業により導入された繁殖牛により生まれた子牛をブランド化することにより畜産農家の経営の安定化を図る。

前年度までの成果

○平成26年度～令和4年度 導入実績 111頭

5次総計の該当箇所

○第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策3 農林水産業の新たな担い手の確保と先進化

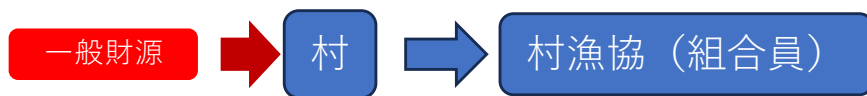
事業概要・目的

- 本村の水産業は、モズク養殖を基幹としており、正組合員の7割強がモズク生産部会に加入している。モズク養殖は、天候による生産量の増減や年度ごとに乱高下する取引価格、また昨今の急激な資材高騰等により不安定な経営を余儀なくされている状況である。
- 本事業は、伊平屋村漁業協同組合とその組合員が、水産業振興に資する計画を実施するために必要な経費を、提出された計画書をもとに幅広く支援することを目的としている。

事業イメージ・具体例

- 伊平屋漁協より、水産業振興に関する計画書（共同利用施設及び全体活動等）を提出し、村で事業認定。
- 伊平屋漁協より、水産魚振興に関する組合員の個別計画（機器の更新や機能強化等）を取りまとめて提出し、村で事業認定。

資金の流れ



期待される効果

- 共同利用施設の利便性向上
- コスト削減等による経営安定化
- 機能更新及び強化等による水揚げ増加等

前年度までの成果

- 漁船の修繕等を目的とした伊平屋漁港船揚場施設の利用促進に係る漁船台車導入費用の一部として補助した。漁船の修繕は、燃費向上や更新期間の延長等を目的としており、ランニングコストを削減することで、漁家経営の安定化を長期的に支援するものである。

5次総計の該当箇所

○第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策6：島のランドデザインにふさわしい観光の促進

事業概要・目的

事業概要

○伊平屋村の入域観光客数増加を目的とした、誘客イベントを実施する。

事業実施の目的

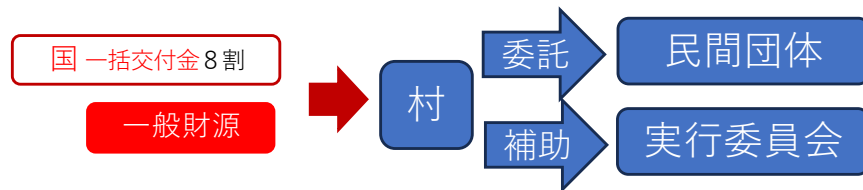
○村内外において、誘客イベント等を開催し、観光誘客を図る。

事業イメージ・具体例

R6年度実施内容

- 誘客イベントの開催及び開催を支援する。
- イベント開催委託 7件
 - ①ウェルカムイベント（4月～5月）
 - ②沖釣り大会（7月）
 - ③キャンプ大会（7月）
 - ④特産品PR促進-道の駅許田（通年）
 - ⑤特産品PR促進-羽地の駅（通年）
 - ⑥伊平屋ヴィレッジトレイル（1月）
 - ⑦スポーツイベント促進（2月）
- イベント開催支援 2件
 - ⑧第36回いへやまつり（7月）
 - ⑨第30回伊平屋ムーンライトマラソン（10月）
- 事業費：89,533千円（うち国費：56,159千円）

資金の流れ



期待される効果

【R6年度成果目標】
村内入域客数 18,000名以上（R4実績より）

前年度までの成果

- 入域観光客数 R4 18,206人 → R5 22,185人
 - ・集客実績 ウェルカムイベント 511人、沖釣り大会 31人、キャンプ大会 74人、ヴィレッジトレイル 360人、スポーツイベント 87人
- 特産品等販売実績 羽地の駅 41万円（R5）

5次総計の該当箇所

○第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策6：島のグランドデザインにふさわしい観光の促進

事業概要・目的

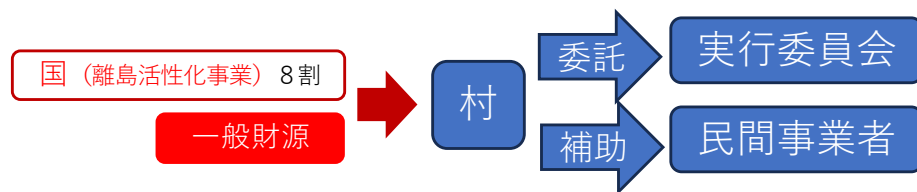
事業概要

地域経済の活性化、地域所得の向上を図るため、島外催事出店への旅費等を補助し、販売促進能力・技術の向上と販路拡大へのモチベーション向上を図る。

事業実施の目的

島内事業者へ島外催事等へ出展する際の費用を補助し、事業者自ら販路拡大に取り組むことで、地域特産品のPR、ビジネスマッチングによる取引先の拡大を図り、島外での売上高拡大による地場産業の活性化、地域所得の向上と自立型経済の構築を推進する。

資金の流れ



事業イメージ・具体例

R6年度実施内容

事業者が自ら離島の不利性を乗り越えて販路拡大に向けて行動できるよう、島外催事出展費用の一部を補助する。補助対象経費は催事出展に係る出展料、フェリー往復運賃及び宿泊交通費とする。また、物産フェアの開催運営費等を補助する。

期待される効果

- 販売促進及び催事出展による特産品販路拡大伊平屋観光・物産フェアへの出展者数
 目標13事業者（島内事業者出展者数R5 12事業者）
 売上目標9百万円（R5 845万7千円）
- その他参加した催事における出店者数・売上
 R4実績 7イベント 9事業者・売上163万円
 R5実績（1月末） 4イベント 8事業者売上359万円

前年度までの成果

伊平屋観光・物産フェア

島内事業者出展者数H29年度12事業者 → R5年度12事業者
 売上高 R4年度 7,438,000円 → R5年度 8,457,000円

5次総計の該当箇所

○第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島

施策6：島のランドデザインにふさわしい観光の促進

○第4章 安全・安心、快適な暮らしを支えるしまづくり

施策5：情報通信基盤の整備

事業概要・目的

事業概要

令和5年度にシステム構築した「フェリーオンライン予約・購入システム」を村の観光DX化に向けたプラットフォーム（共通の土台）と位置づけ、今後の各種サービスなどの観光振興に資する。

事業実施の目的

「フェリーオンライン予約・購入システム」を令和6年度以降の本格的な機能実装及び様々なサービス連携（宿泊や飲食、レンタカーなどの各種サービスとの接続・連携を行う）を促進し観光DX化を図ることを目的とする。

資金の流れ

一般財源（企業版ふるさと納税）

村

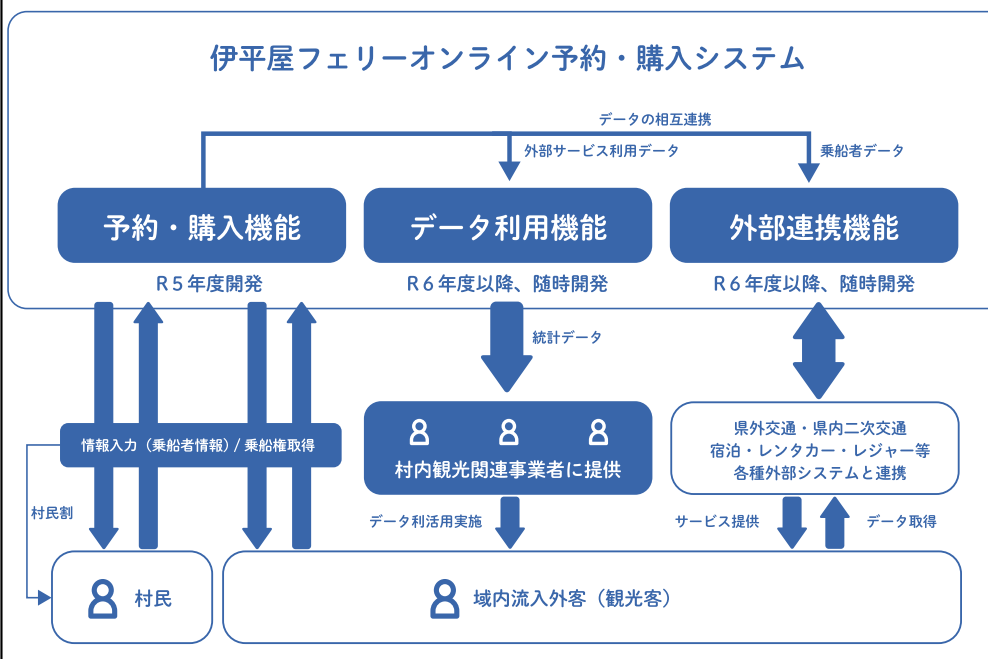
事業者

前年度までの成果

伊平屋フェリーオンライン予約・購入システムの開発・納入（見込み）

事業イメージ・具体例

R6年度実施内容



期待される効果

第4次観光振興計画【具体的なプロジェクト】
施策3 観光客が飲食に不自由しない環境づくりに明記されている週末でも開店するモチベーションを創出する。
本業務において構築したシステムと連携することにより、入域者情報の共有化が図れ、在庫・売上げ管理が可能となり、週末でも開店するモチベーション創出を図れる。

5次総計の該当箇所

○第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策5：体験・交流型観光コンテンツの充実による観光交流産業の振興

事業概要・目的

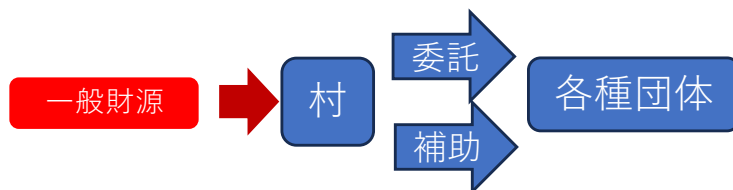
事業概要

- 伊平屋村商工会及び伊平屋島観光協会への運営費補助
- 米崎海浜公園体験交流施設の指定管理及び維持管理費委託

事業実施の目的

来島者との交流による地域の活性化や就業機会の創出、地域住民の所得向上を目指すとともに、コーディネーター・インストラクター等の観光・交流事業に携わる人材の育成や多様な活動メニューの開発・起業の支援、観光交流情報の受発信等の支援を関係機関と連携して行う。

資金の流れ



事業イメージ・具体例

R6年度実施内容

- 補助金
 - ・村商工会 9,480,000円（前年度 9,148,000円）
 - ・島観光協会 16,176,000円（前年度 16,594,000円）
- 委託料（指定管理、伊平屋島観光協会）
 - ・いへや愛ランドよねざき 3,500千円（前年度 3,500千円）
 - ・北緯27度線モニュメント広場 428千円（前年度 340千円）

期待される効果

地域性の強い観光資源を基にプランを作ることにより、多様化する旅行者のニーズに対応することが可能となり、地域の活性化に貢献することになる。

前年度までの成果